

プレスリリース

pure-systems 社 pure::variants Version 3.0 をリリース

バリエーション管理ツールの最新版により、ソフトウェア・プロダクトラインへの取組みの多くを自動化し、使い勝手を強化・改善しました。

Magdeburg, Germany and Limerick, Ireland 9 September 2008 pure-systems 社は、最も包括的にソフトウェア・プロダクトライン・ライフサイクルを支援する pure::variants 3.0 をリリースしました。pure::variants により、複数のバージョンのソフトウェア集約システムを個々に開発するのではなく、単一のプロダクトラインから生成し、管理できるようになります。pure::variants 3.0 では、顧客の要求を受け 100 以上の新機能、変更が加われました。新機能ではバリエーションの管理のさらなる自動化、ユーザインターフェイスの向上など、pure::variants をよりパワフルで、使い勝手の良いものにしました。（主なる変更に関しては、このニュース後半で紹介しています）

“ pure::variants によりバリエーションの管理は、あらゆる開発ツール、製品と統合させることができます。単一のベンダーや製品に拘束されることはありません ” -Danilo Beuche, the founder and managing director of pure-systems

“ pure::variants 3.0 のリリースにより、あらゆる組織においてバリエーション管理が一層容易になりました ”

pure::variants は、Eclipseのオープンアーキテクチャなフレームワークの上に構築され、APIも公開しています。そのため、他のツールとシンプルに統合され、使用法の習得も容易です。

pure::variants は単一の環境でコードだけではなく、要求仕様、モデリング開発環境におけるモデル要素、テストケース、各種ドキュメントなど、プロジェクトの全段階で生成される資産（バリエーションを持ち、再利用されるものならば何でも）を管理します。そしてオープンプラットフォームゆえ、特定の手法に関係なく、必要に応じて適合させることができます。結果、pure::variants を用いることでコア資産を特定し、アプリケーション・ライフサイクルの全段階で体系的な再利用が支援されます。

pure::variants という単一のツールで全資産を管理できるようになり、pure::variants 3.0 の新しい変換機能とスクリプトのサポートにより、新たなバリエーションの生成に必要な多くの機能を自動化できます。これにより、生産性は飛躍的に向上し、開発工数が大いに削減できるでしょう。

pure::variants は、幅広く他のツールと統合されています。Eclipse だけでも 40 以上で、openArchitectureWare のサポートも含まれています。MATLAB Simulink や Targetlink などモデルベースのコード生成ツールに加え、更なるツールの追加が進行中です。

“ pure::variants 3.0 のリリースにあわせて、MKS 社との技術協力を発表し、MKS Source, MKS Integrity and MKS Requirements との統合や、JIRA Bug and Issue Tracker, FreeMind MindMapper と

の統合を提供しています。” -Danilo Beuche “また年末には、Telelogic Rhapsody, Artisan Studio, Sparx Systems Enterprise Architect などのモデルベース開発ツールとの統合も追加いたします”

pure::variants 3.0 の教育・調査用に、モデル数など機能制限付きの Community edition の無償ダウンロードを提供しています。評価版として Standard edition の期間限定付きダウンロードもごさいます。完全な機能を搭載する Professional、及び Enterprise edition は、Windows, Linux, Mac OS-X に対応し、Eclipse 3.2 以上で動作します。

pure-systems 社では、コンサルタントやトレーニングなど pure::variants をサポートし、国際的なスペシャリストのネットワークを介して、SPL ライフサイクルの最適化を支援しています。国内では、富士設備工業(株)電子機器事業部により、販売・サポート・トレーニング・コンサルティングを承っています。

ENDS

pure::variants 3.0 Background 1:

特筆すべき pure::variants 3.0 の新機能

pure::variants 3.0 の 100 以上の新機能の多くは、自動化促進とユーザインターフェイス向上のために追加され、多様なバリエーションを伴ったプロダクトラインを構築し管理することが容易になりました。

階層的なバリエーションの構成

階層的なバリエーション構成が可能になり、複数のエレメントからなる特定のバリエーションをコア資産として管理できるようになりました。これにより事前に構成されたバリエーション群から、複雑なプロダクトラインの階層を構成することができます。そしてコア資産は、同一の構造化可能なシステムの複数のインスタンスを含む製品の生成に用いることができます。これらにより各々のプロダクトラインを一から創造することに比較して、複数の製品を構成し、管理維持することに掛かる工数を削減できるようになります。バリエーションを個々に分解し、独立した構成可能な基本ブロックとすることで、複数のプロダクトライン間の柔軟な標準デザインエレメントとしての再利用が容易になります。

マルチプル変換と Ant へのインターフェイス

バリエーション定義モデル (VDM) の変換に、複数の名前を設定できるようになりました。これにより、バリエーションの定義から異なるアウトプットを得ることができます。例えば “Report” という名前でレポート、“Build” で製品ソースコード、“Tests” でテストやテストプランの生成を行えます。この変換作業はカスタマイズし、Ant のようなスクリプトに組込むことで、強力な自動化を容易に実現することができます。各変換作業はそれぞれに関わる内容にのみ実行され、多くのバリエーションの生成をより快適に行えます。そして、既存のワークフローへ統合し自動化を更に支援します。

国際化への対応とインターフェイスの強化改善

pure::variants 3.0 で、フィーチャーの名前、記載に異なる言語を保存できるようにしました。担当者ごとに自分の言語を選択できるようになります。その為、国際的な協調作業、意思伝達がとても容易になりました。また新しい HTML オプションにより、豊かな形式でよく構成された理解しやすいドキュメント、レポートを生成します。

以上に加え、pure::variants のより強化された機能として、モデルへのアトリビュート設定、バリエーション生成の為の追加ルール、へのインターフェイスなど。

pure::variants 3.0 Background 2:

SPL (ソフトウェア・プロダクトライン) とバリエーションの管理

現れては消えるツールのセグメントでは、何を対象としているのか？ 解決される課題は何か？ といった混乱を招いています。ソフトウェアエンジニアリング手法と実践の世界的な機関である SEI (The Carnegie Mellon Software Engineering Institute) は、SPL (software product line) を、“特定マーケットや業務・使命で固有の要件を満たす共通の管理された機能を共有する一連のソフトウェア集約システムであり、共通のコア資産を用いて所定の方法で開発される”と定義しています。例えば携帯電話は、電話機能、カメラ、テキスト管理、電話帳管理、インターフェイス、ミュージック機能、OS などのコア資産を持ち、新機種はこれらの多くを盛り込んで、新しい機能を取りこむでしょう。

SPL とリンクされる ALM (application lifecycle management) は、アプリケーション開発の最初の要件定義から、開発設計、テスト、実使用にまで全フェーズに対する体系的なアプローチです。かねてから ALM、SPL に関わる課題は認識され、開発組織は内製ツールや独自プロセスでもって対処を試みていましたが、近年ようやく ALM、SPL の運営を支援するツールが提供可能となりました。

pure::variants によるバリエーション管理は SPL、ALM の両方で、異なるエレメントを管理して SPL ライフサイクルを構築し、最初の仕様や実装から統合させて、どの製品ファミリーメンバー (バリエーション) が、どのバージョンの資産を用いているかの追跡・確認が容易になります。

Notes for editors:

1) About pure-systems 社について

pure-systems 社はソフトウェアのバリエーション管理に取組み、複数のバージョンのソフトウェア・システムを個々に開発するのではなく、単一のプロダクトラインから生成するための手法とツールを提供しています。pure-systems 社のソリューションは、事業単位でバリエーションとバリエーションの情報を保守する為のアプローチです。

そのため、Audi, Bosch, Daimler, Danfoss, Denso, Hitachi, Honeywell, Samsung, Siemens 社など国際的な顧客に採用され成長を続けています。また、pure-systems 社のパートナーは、Telelogic, IBM, The MathWorks, MKS, Fraunhofer FIRST, ICT NoviQ and HOOD Group などです。本拠地は、ドイツ・マグデブルグ。更に詳しい情報は、www.pure-systems.com を参考下さい。

2) Contacts: 連絡先

Holger Schmiedefeldt, VP Business Development
Phone: +49 178 544 5695
Email: holger.schmiedefeldt@pure-systems.com

(国内) 富士設備工業(株) 電子機器事業部 浅野義雄
電話: 072-252-2128
Email: yoshio@fuji-setsu.co.jp